

# 監視 使い衛星人工 地造成土 盛り



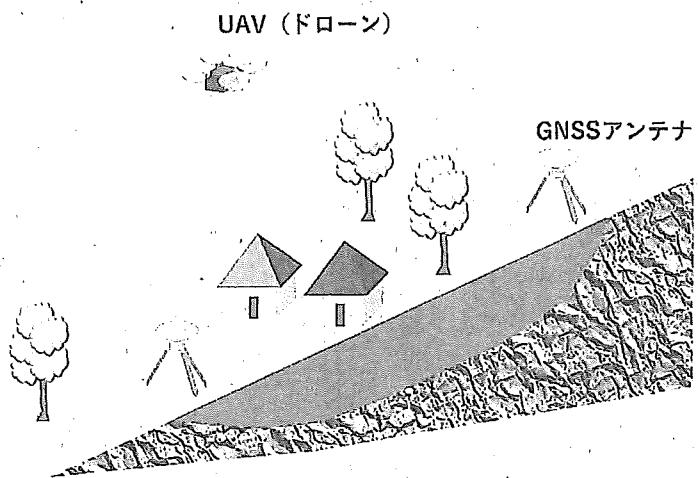
母子ら3人が死傷した事故現場  
 11月24日、川崎市宮前区

ンコの治  
 どの自宅  
 助手席の  
 コに注意  
 対向車線  
 きた。「  
 気の緩み

## 目視でつかめぬ崩落兆候を早期把握

川崎市は、人工衛星を使って、盛り土造成地の変化を監視するシステムの導入に取り組んでいる。静岡県熱海市で昨年7月に発生した大規模土石流のような崩落の兆候を早期に把握し、防災対策に活用していく。

### 川崎市が取り組み



大規模造成地に複数の観測地点を設けて年間4回程度、人工衛星を使った測位システムで地盤の変動を監視する。さらにドローンなどからのレーザーで測量をしてデータを補う。造成地を立体的にとらえ、目視ではつかめぬ変化をみる。

市によると、宅地化された大規模な盛り土造成地は市内に1千カ所以上ある。市は2006年ごろ現地調査を進め、ひびの有無を人の目で追ってきた。精度を上げようと、測量会社の日豊(川崎市宮前区)からの提案を受けて共同研究を始めた。共同研究には川崎市や日豊、県温泉地学研究所や清水建設(東京都)など計8者が参加。日豊によると、総事業費は約2億6千万円で国から約6500万円の補助金を受けた。

市担当者は「目視よりも客観的かつ詳細なデータを集めて活用したい。安心・安全につなげたい」としている。(佐藤英法)

人工衛星を使った大規模盛り土造成